



實相寺 花園会報

令和二年
十二月一日発行
発行所

臨済宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会

〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1

TEL087-889-3838
編集発行人
山本文匡

<http://www.jissouji.net>

第140号

珍しい穴あき雲

ニュースでも紹介されまし
たが、11月30日の朝、四国や
東海地方で珍しい雲が観測され
ました。この写真は寺庭さんが
出勤時に仏生山駅で撮影した
ものです。

「過冷却」状態にあるつろこ
雲の一部が凍って、その部分
が落下、蒸発して穴があく珍
しい現象なんだそうです。

「来年の年忌法要」

来年、年忌法要が当たっている方は、
以下の表に亡くなった方々です。特に
赤字で記載している十三仏事では、古
くから追善供養が行われてきました。

近年は、二十三回忌や二十七回忌、
三十七回忌や四十三回忌などの文字も
見かけることがあります。当初イン
ドでの法要は初七日から四十九日まで
の七回でした。そこに中国で百ヶ日と
一周忌、三回忌が加わって十回となり、
さらに日本で鎌倉時代までに七回忌と
十三回忌、三十三回忌の三つが加わり
十三仏事となりました。

最近ではコロナ禍もあってなかなか親
類家族が集まることもままならない状
況ですが、せめてご家族だけでも十三
仏事はお勤めしたいものです。

なお、ご法事を予定されている場合
は、お早めにお寺にご相談下さい。ま
た遠方のご家族用にインターネットで
のお参りもお寺で準備出来ます。

一周忌	令和二年
三回忌	平成三十一年・令和元年
七回忌	平成二十七年
十三回忌	平成二十一年
十七回忌	平成十七年
二十五回忌	平成九年
三十三回忌	昭和六十四年・平成元年
五十回忌	昭和四十七年

「私達は何を信じて生きるのか」

今年も残すところひと月足らずとなりました。来月からは丑年です。先月も申しましたが私が住職に就任し丸12年が経ちました。つまり再び丑年を迎える訳です。亡くなった方の十三回忌と同じく、「月日が経つのは早いものだなあ」とその感慨も一入です。

今年はコロナ禍で外出が減った分、お互いに自らを見つめる機会は増えたのではないかと思います。このコラムでも長々とお寺の現状をお伝えしてきましたが、そのおかげで私自身も現状を整理し、把握し直すことが出来たように思います。

またその結果、当初からの懸案であった寺院会計の一般会員への公開と、新会員の募集に向けて、ようやく具体

的に始動することが出来ました。来年からは新たな気持ちで次の12年後に向けて歩を進めて行きたいと存じます。

そこでこのコラムも次回からは気分を一新し、新たなテーマでシリーズ化したいと思います。振り返りますと、これまでは季節に応じた禅語や時事に即した話などの他、法事で読むお経の解説や『十牛図』の解説などを書いてきました。しかしお釈迦様の話題には、殆ど触れていないようです。

禅宗徒である前に私達は仏教徒ですので、宗派に関わりなく、お釈迦様の生涯がどのようなものであったかを知ることが、お釈迦様の教えを知る手掛かりにもなりましょう。そこで来年は釈尊伝を書いていきたいと思います。

勿論、お釈迦様の伝記はお釈迦様が

亡くなって随分経ってから、後世の人達によって編まれたものです。ですから完全な史実ではありません。

例えば、母である摩耶夫人の右脇から生まれ、生まれた直後七歩歩いて「天上天下唯我独尊」と仰ったという話はとても人間とは思えません。しかし当時のインドでは、バラモン階級は頭から、王侯貴族は脇から、市民は腹から、労働者は足の下から生まれてくると言われていました。ですからこの伝説は、お釈迦様が王侯貴族階級に生まれたことを寓意している訳です。

この様にただ釈尊伝を文字通りに読むだけでなく、様々なエピソードに込められた意味を紐解きながら書いていきたいと思いますが、勿論、私自身にはその様な理解力や知識はありません。

そこで頼りにするのは、花園大学の佐々木閑先生です。佐々木先生はコロナ禍によるリモート授業の為、今年五月頃からユーチューブに講座を開講され、対面授業となった今も投稿を続けていらっしやいます。

本当は直接佐々木先生の動画をご覧頂ければいいのですが、皆さんの中にはパソコンが苦手という方もいらっしゃるでしょう。そこで私が佐々木先生の動画を参考にしつつ、釈尊伝の現代的な意義を解説していきたいと思います。そうすることで仏教の教えの基本を再確認すると共に、この苦しいコロナ禍の中、思い通りにならない人生の中、私達は何を信じて生きればいいのか？そのヒントを見つけることが出来るのではないかと思うのです。